

齲蝕・歯周病関連項目の改善

- 比嘉歯科医院 副院長 山口 貴子 先生
- 第16回日本補完代替医療学会学術大会(2013年)口頭発表より
- 『乳酸菌生成エキスの歯科応用に関する一考察』第16回日本補完代替医療学会学術集会抄録集 p68



山口 貴子先生

【目的】

乳酸菌生成エキス飲用者の口腔内細菌数、歯周ポケットの深さの変化を提示し、歯科応用について考察した。

【対象及び方法】

観察①: 乳酸菌生成エキス使用者8名と未使用者8名において、ミュータンス連鎖球菌数(MS数)と齲蝕菌比率を飲用前と飲用後に計測した。乳酸菌生成エキス使用者は、乳酸菌生成エキスを朝夕各10ml飲用した。それぞれ検査前2時間は口腔清掃や飲食を制限し、検査期間中は、う蝕・歯周治療、TBI(歯磨き指導)は行っていない。

観察②: 歯周初期治療後、メンテナンス期に移行した歯周病患者7名において、乳酸菌生成エキスを1日10ml飲用してもらい、飲用前と飲用概ね2か月後に平均ポケットの深さ、MS数、Porphyromonas gingivalis数(P.g.数)、P.g.菌比率を計測した。観察①②の対象者は、過去3ヶ月以内に抗菌物質を投与されていない。また、解析はウィルコクソンの符号付順位和検定を行った。

【結果】

結果①: 乳酸菌生成エキス使用群は、飲用後、有意にMS数が減少した($p < 0.05$)(Fig.1.)。未使用群は、1週間後、有意差は認められなかった。使用群は、飲用後、全例において、齲蝕菌比率(MS数/総レンサ球菌数)が目標値の2%以下を示した。(Table1.)

結果②: 総菌数は、2か月間でほとんど変化がなく有意差は認められなかった。MS数は、有意に減少した($p < 0.05$)。また、メンテナンス移行時および飲用2か月後のP.g.数およびP.g.菌比率は、全例において低値を維持していた。歯周ポケットの平均値は、メンテナンス移行時および飲用2か月後で減少した(Fig.2.)。

【考察】

乳酸菌生成エキスの飲用により、口腔内病原性細菌(齲蝕および歯周病関連菌)が制御され、発症しないレベルに近づける可能性が示唆された。今後、更なる検討が必要であるが、メンテナンス期における乳酸菌生成エキスの併用が、齲蝕リスクの低減や歯周病の再発阻止に有用であることが期待される。

Table1. 齲蝕菌比率(MS数/総レンサ球菌数)

リスク基準値2% (唾液検査ハンドブック/鴨井久一、他)

使用群	EX1	EX2	EX3	EX4	EX5	EX6	EX7	EX8
飲用前	1.7(%)	0.5	0.5	4.4	3.6	0.1	2.1	0.1
飲用1週間後	0.4	0.2	0.1	1.5	1.6	0.1	1.2	0.1

※ $p = 0.028$

未使用群	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8
飲用前	2.7(%)	0.1	0.4	0.6	5.0	5.0	1.0	1.3
飲用1週間後	2.1	0.1	1.6	0.5	5.0	5.0	1.8	0.4

Fig.1. ミュータンス連鎖球菌数の変化

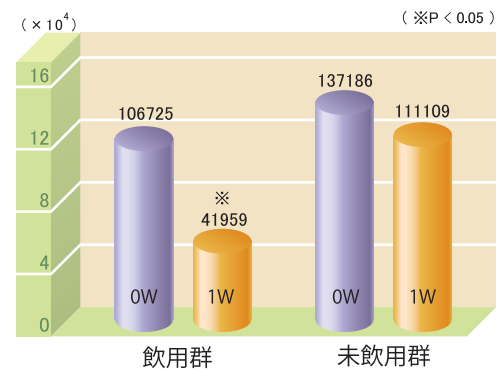


Fig.2. 歯周ポケットの深さ(平均値)の変化

